

AI 活用で挑む学問の革新と創成
2020 年度採択研究者

2020 年度 年次報告書

山田寛章

東京工業大学 情報理工学院
大学院生(博士課程)

民事紛争のための説明可能な解決結果予測モデル

§ 1. 研究成果の概要

本研究は自然言語処理技術を用いて、与えられた事実関係から民事紛争解決結果を予測し、その根拠や説明を併せて出力できるモデルの構築を目標としている。研究の第一段階として、紛争解決結果予測を機械学習が適用可能な形に定式化し、システム構築および評価に用いるデータセットの構築を行うことが必須である。本年度(2020年12月～2021年3月)では、タスクの定式化、及び次年度以降に本格的に実施する大規模データセット構築のための準備を行った。

本年度の成果としては、紛争解決結果予測を法学的見地からも有用なタスクとして設計するために、法学研究の専門家との意見交換・議論を行い、本研究の実験対象とする事例の選定条件の検討を行ったこと、また、次年度での大規模データセット構築に必須となるアノテーション作業への法律専門家の参加・協力を得られることになったことが挙げられる。特に、角田美穂子教授(一橋大学)が主宰する「法制度と人工知能(JPMJRX19H3)」プロジェクトと共同ミーティングを行い、問題意識が共有されていることを確認した。今後は、相互に連携して研究を展開していくことで合意した。次年度以降のデータセット構築の際のアノテーション及び紛争解決結果予測実験のモデル出力の法学的見地からの分析において、協力していく予定である。

本年度に得られたタスク設計・データセット構築準備に関する知見は、データセット構築完了後にデータセット本体と併せて論文等の形態として公表する計画である。